「Z-GIS」「ザルビオ」で栽培管理の効率化探る

1月19日(金)、営農管理システム「Z-GIS」と栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」の担い手生産者向け研修会が、男鹿地区営農センターで開かれました。生産者のほか当JAの職員も参加し、先端技術を活用した農地や農産物の管理の効率化を探りました。

JA全農あきた営農支援課が、両システムの特長や活用法を説明。生産者はパソコンで自分の圃場の位置をマッピングしたり栽培品種などの情報を入力したりと、実際にシステムを操作して機能を試しました。

パソコンで圃場マップを操作する参加者

スナップエンドウ実績検討会・栽培講習会

1月19日(金)、スナップエンドウの実績検討会が男鹿地区営農センターで開かれました。今年度は異常気象などの影響で出荷量や販売額が減少しましたが、同センター管内からは3・8トンが出荷され、平均単価は例年より高単価の1箱当たり1081円となりました。施肥試験の結果も報告され、今後も継続して連作障害の軽減を図ります。

栽培講習会も行われ、主力品種「ニムラサラダスナップ」を育種したヴィルモランみかど(株)が管理しやすい仕立て方や長期間収穫するための栽培方法などを解説しました。

スナップエンドウの草勢管理を学ぶ生産者

枝豆の販売動向を確認

1月25日(木)、枝豆の実績検討会と栽培講習会が雄和支店で開かれました。生産者や市場関係者らが生育経過や販売実績を振り返り、高温対策や種子の供給動向なども学びました。

7月の大雨で栽培面積62・1ヘクタールのうち約90%が被害を受けたことなどから、今年度の出荷量は117・7トン、販売額は8144万円となりました。市場関係者からは「コールドチェーン(低温管理)が徹底され、食味もよかった。今後も変わらず生産してほしい」と期待が寄せられました。

枝豆栽培の1年を振り返りました

寒じめホウレンソウ出荷

ホウレンソウの旬を迎えました。生産者が連日収穫作業に励んでおり、多くのホウレンソウが出荷されています。1月からは寒じめ栽培のホウレンソウの出荷が始まりました。

ホウレンソウは冷気に当たると糖度やビタミン含量が高まり、硝酸の量が少なくなります。寒じめ栽培では収穫前のハウスを開放して寒気を取り込み、糖度が7度以上などの出荷基準を満たしたものに専用シールを貼って出荷します。

冬は食味も栄養価も高いホウレンソウを食べられる絶好の機会です。ぜひお楽しみください。

収穫された寒じめホウレンソウ

NAMAHAGE HIGHLIGHT

JAカードの盗難・紛失時は

NICOS盗難紛失受付センター(24時間・365日対応) 0120-159-674へ
JAカード(一体型)の場合はお取引のJA支店にもお申し出ください